慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	カテコールアミン類の液体クロマトグラフィー
Sub Title	
Author	重水, 喜代美(Shigemizu, Kiyomi) 西松, 邦子(Nishimatsu, Kuniko) 高井, 信治(Takai, Nobuharu) 永田, 佳子(Nagata, Yoshiko) 菅田, 節朗(Sugata, Setsuro) 松島, 美一(Matsushima, Yoshikazu)
Publisher	共立薬科大学
Publication year	1987
Jtitle	共立薬科大学研究年報 (The annual report of the Kyoritsu College of Pharmacy). No.32 (1987.) ,p.106- 106
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	学会講演要旨
Genre	Technical Report
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00062898-00000032-0107

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

多糖は上記2糖単位と3～9糖単位（存在比，1：1）の主鎖中のラムノースの3/22の4位に1→4結合ガラクトースの側鎖が結合する構造と推定される。

ガラスODSカラムを用いたジンセノサイド類の高速液体クロマトグラフィー

金沢秀子，永田佳子，松島美一，友田正司，高井信治*

〔第30回日本薬学会関東支部大会（1986年11月，新潟）で発表〕

高速液体クロマトグラフィー（HPLC）は生体試料や医薬品等の分離や分析に広く用いられている。HPLCの普及に伴い，特に医療の分野で正確であると同時に迅速に情報を得たいとの要求が強く出されるようになった。われわれはこれらの要求に応ずるため，カラム充填剤としてオクタデシル基で修飾した多孔質ガラスを開発し，これを用いて解熱剤の分析が迅速にできることを既に報告した。

ジンセノサイド類 ginsenosides は薬用ニンジンの主要成分である各種のサポニン配糖体の混合物であり，そのHPLC分離については既に幾つかの報告がある。ガラスODSカラムを用いたHPLCによりジンセノサイド類の分析を試みたところ，従来の方法より迅速に，優れた分離が出来ることが認められ，その分析条件を検討した。

* 東京大学生産技術研究所

カテコールアミン類の液体クロマトグラフィー

重水喜代美，西松邦子，高井信治*，永田佳子，菅田節朗，松島美一

〔第2回エル・エス・ティ学会大会（1986年11月，東京）で発表〕

カテコールアミンの迅速分析法の開発を目的として高速液体クロマトグラフィーの条件を検討した。カラムはMPD-ODS，電気化学検出器，溶離液としてEDTAを含むりん酸緩衝液を用いた。この方法により，エピネフリン，ノルエピネフリン，ドーパミン，レボドパを5分以内に分離分析することが可能であることを確かめた。

* 東京大学生産技術研究所